

はじめに

今日、日本のあらゆる組織において「評価」は必須の事項となっている。大学もその例外ではない。大阪大学人間科学研究科・人間科学部では、1992年に評価委員会が設置され、翌年に『大阪大学人間科学部白書』が刊行されている。1996年と1998年に引き続き「白書」が刊行された後、2005年以降は毎年『部局自己評価報告書』が刊行されている。

外部評価は、2005年度にはじめて実施された。その結果は、自己評価報告書との合本として、2006年6月に刊行された。その後、2006年度から2009年度の評価結果が2010年4月に、2010年度から2013年度は2014年3月にそれぞれ『外部評価報告書』として刊行されている。今回の報告書は、それに続く2014年度から2017年度までを対象としている。

今回の外部評価を担当してくださったのは、江原由美子先生（横浜国立大学教授）と溝上慎一先生（京都大学高等教育研究開発センター教授）のお二人である。ご専門、世代、ジェンダー等のバランスにも考慮し、評価の分野でも豊富なご経験をお持ちのお二人に外部評価委員を依頼させていただいた。ご多忙にもかかわらず、この煩雑で多岐にわたり、容易ではないお仕事をお引き受けくださった両先生に、深く御礼を申し上げる。

自己評価と外部評価は、つねにペアになっている。あるいは、自己評価は外部評価があつてはじめて完結するといってもよいだろう。公正で見識のある第三者の視点は必要である。この報告書が、部局の教職員に広く参照され、今後の発展の礎をなることを願っている。

2018年3月

大阪大学大学院人間科学研究科
研究科長 栗本 英世